

令和8年8月24日

文部科学省
初等中等教育局教科書課 御中

全日本中学校長会

「デジタルな形態を含む教科書」の発行・採択等に係る指針に関する意見書

文部科学省において検討が進められている「デジタルな形態を含む教科書」の発行・採択等に係る指針について、本会所属校長の意見を集約した結果を基に、本会としては、生徒の学びの質の向上を最優先とする観点から、下記のとおり意見を提出する。

1 全てがデジタルの教科書について、学年・教科を限定して発行・使用等を認めることについて

(1) 本会の意見

中学校段階においては、全てがデジタルの教科書（フルデジタル教科書）の活用は、教科の特性や学習活動の内容を踏まえ、限定的かつ段階的に導入することが適当である。

デジタル教科書は、音声、動画、シミュレーション等の活用により学習内容の理解を深めたり、個別最適な学びを支援したりするなどの利点がある。一方で、書字活動の減少、長文読解への影響、学習内容全体を俯瞰して把握することの難しさなどの課題も指摘されている。

また、中学校においては一人一台端末が教科書閲覧以外にも協働学習や情報共有等に活用されていることから、教科書機能への過度な依存による教育活動への影響についても考慮する必要がある。さらに、通信障害、端末故障、災害時等における学習保障の観点からも、紙媒体を完全に代替することについては慎重な検討が必要である。

(2) 本会からの要望

- フルデジタル教科書の導入は、教育効果に関する実証的な検証を踏まえ、段階的に進めること。
- 教科特性に応じた導入基準や活用の考え方を明確に示し、学校現場に過度な判断負担が生じないように配慮すること。
- 学校や地域の ICT 環境の実態を踏まえ、採択権者や学校が柔軟に選択できる仕組みを整備すること。
- 健康面、学習効果及び書字能力への影響について継続的な調査研究を行うこと。

2 全てがデジタルの教科書が相応しくない教科について

(1) 本会の意見

中学校段階においては、以下の教科について、フルデジタル教科書の導入の可否を慎重に検討すべきである。

国語 長文読解、文章構造の把握、熟読を通した深い読みや書き込みによる思考整理など、紙媒体による学習効果が高い教科である。

社会 地図、年表、統計資料等を複数比較・関連付けながら考察する場面が多く、紙媒体による一覧性や俯瞰性が学習理解を支えている。

道徳 教材をじっくり読み、自らの価値観や生き方について考えを深める学習が中心であり、静的で落ち着いた学習環境を提供する紙媒体の有効性が高い。

数学 計算過程や思考過程を手書きで表現しながら学習することが極めて重要である。特に、途中式の記録や図形の作図、試行錯誤の過程を残す活動においては、紙媒体の教育的価値が大きい。

(2) 本会からの要望

- 国語、社会、道徳及び数学については、紙媒体の教育的効果を踏まえ、フルデジタル化の可否について慎重な検討を行うこと。
- 教科の特性に応じた効果検証を十分に実施し、実証的根拠に基づいて制度設計を進めること。
- 手書きによる学習活動が果たす役割について、認知面及び学力形成の観点から継続的に検証すること。

3 ハイブリッドな形態の教科書における紙中心の構成及びデジタル中心の構成について

(1) 本会の意見

中学校段階においては、紙媒体とデジタル教材の双方の長所を生かすことができるハイブリッド型教科書を基本とすることが最も現実的かつ教育効果の高い在り方であると考ええる。

①紙中心の構成が望ましい教科【国語、社会、道徳、数学】

これらの教科では、熟読、思索、比較考察、書き込み、思考過程の可視化などの学習活動が重視されるため、紙媒体を基本とした構成が望ましい。

②デジタル中心の構成が望ましい教科【英語、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭】

これらの教科では、音声、映像、動画、シミュレーション、動作解析等のデジタル機能が学習内容の理解や技能習得を効果的に支援することから、デジタルの特性を積極的に生かした構成が望ましい。

また、中学校段階においては、学年による区分よりも教科特性による区分の方が適切であると考ええる。

(2) 本会からの要望

- 当面はハイブリッド型教科書を基本的な教科書形態として位置付けること。
- 教科特性や学習内容に応じて、紙とデジタルの割合を柔軟に設定できる制度とすること。
- 教科書の軽量化や教材更新の迅速化など、デジタル化の利点が十分発揮される環境整備を進めること。
- 災害、停電、通信障害、端末故障等の非常時においても学習機会が保障される仕組みを整備すること。

4 おわりに

全日本中学校長会としては、中学校段階における教科書の在り方について、紙媒体とデジタル教材のいずれか一方に偏るのではなく、それぞれの教育的効果を生かした活用が重要であると考ええる。

特に、国語、社会、道徳及び数学においては、熟読や思索、思考過程の可視化及び書字活動など、紙媒体の有効性が依然として高い。一方、英語、理科及び実技系教科においては、音声や映像、シミュレーション等のデジタル機能が学習効果の向上に寄与することが期待される。

したがって、本会としては、中学校段階においてはハイブリッド型教科書を基本とし、教科特性に応じて紙とデジタルを適切に組み合わせることが最も望ましいと考える。また、制度設計に当たっては、教育効果の検証と学校現場の実態把握を十分に行いながら、段階的に導入を進めることを要望する。

以上